

ポスタータイトル：患者腹水由来初代培養細胞株の種々の移植マウスモデルの構築

発表者氏名 千脇 史子¹

共著者氏名 小松将之¹、高橋真美²、佐々木博己¹、竹下文隆¹

発表者および共著者所属 ¹ 国立がん研究センター研究所 FIOC 創薬標的・シーズ探索部門、² 国立がん研究センター研究所 FIOC 動物実験施設

国立がん研究センター研究所の FIOC では、2010 年より 10 年以上かけて、がん患者腹水から新たな腹膜転移性がんの細胞株の樹立を行ってきた。これまでに、胃がん患者 72 症例から亜株を含め 116 細胞株 (NCC Stomach Cancer: NSC シリーズ) の樹立に成功した。また胃がん以外のがん種についても、膵がん 67 症例 88 株 (NCC Pancreas Cancer: NPC)、卵巣がん 22 症例 23 株 (NCC Ovarian Cancer: NOVC)、脂肪肉腫および乳がん各 2 症例 2 株、食道がん、胃食道接合部がん、十二指腸がん、胆管がん、腎がん、中皮腫各 1 症例 1 株の樹立に成功している。これらの株には、GFP とルシフェラーゼを同時に発現するベクターを導入しており、*in vivo* 非臨床試験にも供することができる。私たちは、これらの導入株を用いて、皮下移植、同所移植、及び腹腔内移植マウスモデルを作成し、IVIS イメージングシステムによって、移植腫瘍の経時的な変化を観察できることを確認した。これらの初代培養細胞株は新薬開発に大いに役立つであろう。

発表者 URL : https://www.ncc.go.jp/jp/ri/departament/translational_oncology/index.html

発表者 :

